



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 天界 1920, 1(1)

ISSUE DATE:

1920-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159517>

RIGHT:



Vol. I.

THE JOURNAL

Nov. 1920

No. 1.

十一月號

天

界

第一卷

號 一 第

内 容

(繪口) 十吋反射望鏡

天文 創立の趣意 ..... 一  
同好會 成立の由來 ..... 一四

星の光度 ..... 三  
(附 一等星表)

理學士 山本 一 清

邦 天文書總覽 ..... 七

所感 (短歌) 古川 龍 城 ..... 七  
伯爵 冷 泉 爲 系

天文と旅行 ..... 九  
水 野 千 里

雑 報 テンベル百濟彗星 ..... 一一  
ロッキヤー氏逝く ..... 一一

十吋反射望遠鏡新着 ..... 一一

▲▲質疑三件▼▼ ..... 一二  
毎月天象豫報に注意 ..... 一三

特別 附録 天文語彙 (其一)

象 天 の 月 一 十

太陽 廿二日午後十一時 天蠍宮から人馬宮に入る

月 三 日午後五時 下半月(蟹座)  
十一日午前一時 新月(米國東部では日食)  
十九日午前五時 上半月(水瓶座)  
廿六日午前十一時 満月(牡牛座)

水星 月初、宵方に蝎座デ星に近い。五日から逆行、太陽に近づき、十六日下合後曉天に現れ、天秤座ア星に近い。月末觀望最適

金星 宵の明星、觀望の好機。十四日に蝎座から射手座に侵入。十日に蛇遣座デ星、廿一日に射手座ラ星を訪問

火星 射手座を順行。廿五日に山羊座入り。道筋は一體に星が少ない獨り旅。――毎日没後觀望し得。

木星 夜半過ぎ東天に出現。獅子座土星 木星に半時間遅れて天秤座に出現。六

日輪消失の珍事 が見ゆる

天王星 水瓶座デ星南四度。日没後見ゆ。

海王星 夜半出現。蟹座東邊。

獅子座流星群 十五日前後 毎夜盛に飛ぶ。輻射點は獅子座が星觀望最適

アンドロメダ座流星群 二十日後、毎夜アンドロメダ座が星から飛ぶ。但し夜半以後は駄目。

## 報 告

一金壹百圓也

大阪 鹽田菊太郎氏

一金壹百圓也

大阪 本山彦一氏

右寄附を頂きましたので兩氏を(會則により)名譽會員に推薦しました

大正九年十月三十日

天文同好會

## 會 告

來る十一月二十八日(日曜)午後一時、京都大學物理學教室第四講義室で例會を開き左の講演があります

宇宙の測量 助教授理學士 山本一清氏

講演後は懇談茶話會に致します。氣焔なり希望なり抱負なり注文なりを持ち寄つて下さい。(なるべく靴が草履の用意をして)

大正九年十月三十一日

同好會幹事

---

Contents of THE HEAVENS No. 1.——edited by I. Yamamoto.

---

Prospectus of the Society of Astronomical Friends——*SI. Yamamoto*,  
Magnitudes of Stars, with a Table of First Magnitude Stars——  
*R. Furuhashi*, General Reviews of Japanese Astronomical Literatures  
——*Ch. Mizuno*, Astronomy and Excursion——*Count Reizei*, On  
Astronomy (Poem)——*Tempel-Kudara's Comet*——*Sir N. Lockyer*  
——10" Reflector——*Querries*——*Notes*.

APPENDIX : *T. Ebi*, Astronomical Lexicon (1).

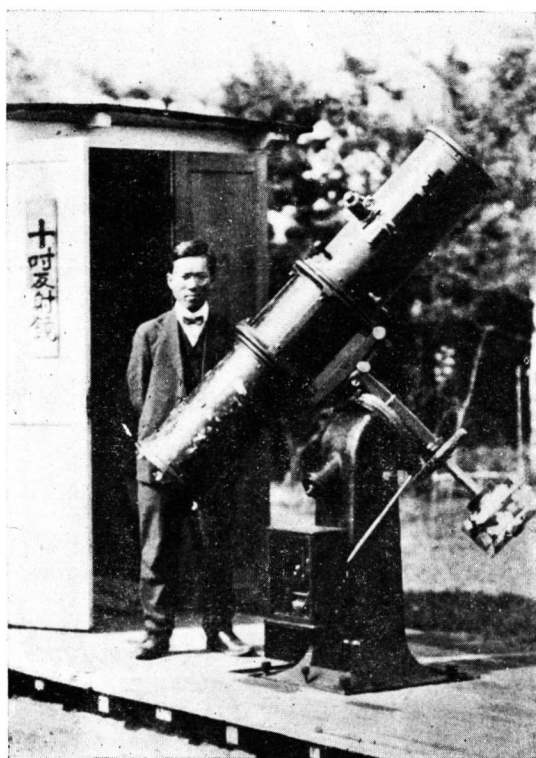
---

Published by the Society of Astronomical Friends,  
Kyoto University Observatory, Japan.

十吋反射望遠鏡

(側は山本助教授)

京都大學天文臺



雜  
報  
欄  
參  
照

10" Kyoto Reflector and Mr. Yamamoto

## 編輯室にて

十月の半ばを旅行のために費したので編輯上に手遅れを來したことを御詫びします。しかし最早第一號が出来た以上大體の陣立は出來たのですから今後は後れないと思ひます。元來此の第一號は御約束によつて十月中に出すつもりでゐましたのです——當分の間毎月二十五日頃に發行(原稿一切は十五日)とし之れを其の「翌月號」とします。例へば第二號即ち「十二月號」は十一月二十五日に出します。之れは「十二月に出る號」ではなくて、「十二月のための號」の意味で即ち天象や報告は十二月のものを載せるからです▲編輯法は大體此號で見て下さい、每號二三纏つた文を載せ、それに雜報、質疑欄、同好會の報告や會報等を載せます。口繪寫眞も必ず一枚づゝ入れています、海老君の御熱心により天文語彙が連載されるのは初學の方々のために喜ばれると思ひます。▲毎月の天象豫報は簡單ですが要領は得てゐるつもりです、好く讀んで利用して下さい。▲質疑欄の解答は百濟君が受持つて下さいます。會員諸君は遠慮なく同君に御尋ね下さい。▲其他感想でも論文でも報告でも何でも御投稿下さい。▲毎月例會の講演は別に集めて講演集を發行するつもりです▲此の初號には會員名簿(十月末現在)を添へました。

大正九年十月三十日印刷  
大正九年十月三十一日發行

(定價金貳拾五錢)

編輯兼  
發行者

京都帝國大學天文臺內

天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者

山本一清

京都市夷川川端東入下ル

佐藤靜

印刷者

京都市夷川川端東入下ル

弘文堂印刷所

印刷所